

八重山海域におけるカンパチ、ヒレナガカンパチ親魚確保に関する基礎的知見

多和田 真 周

ブリ属には4種類(ブリ, ヒラマサ, カンパチ, ヒレナガカンパチ)が知られ、その中のブリについては天然稚魚を採捕して種苗として用い、大規模な養殖が行なわれている。しかし、その他3種については種苗確保が困難なため養殖上の大きな隘路となっている。一方、カンパチ *Seriola dumerili* に関する研究は原田他(1971)原田他(1972)土津井他(1979)による人工採卵, ふ化仔魚飼育について報告例があるのみでヒレナガカンパチ *Seriola rivoliana* についてはない。

八重山海域においては深海一本釣漁船によってマチ類(深海性フエダイ類)が多く漁獲されるがカンパチ類も混獲されるため、標本船2隻(常丸, 宏福丸, 各々2.5t)を設定し昭和57年4月から昭和59年10月の間、漁獲されたカンパチ, ヒレナガカンパチを全数買い上げ、その魚体について多项目的に測定調査を実施した。

本文にはいるに先だち、測定調査に協力して下さいの上原健氏に厚く御礼申し上げる。

**漁場と漁獲状況** 深海一本釣の漁場は水深が100~500mで、主に150~280mの、ソネを形成した場所が中心となる。その漁場図を図-1に示す。日帰り操業海域は石垣島, 西表島近海で、多良間島周辺, 波照間島, 仲ノ神島, 与那国島海域周辺は2~3日操業海域となる。

漁法は1本の幹糸に10数本の枝糸と釣針をつけ、2~3kgの鉄筋をオモリとして使用、カツオ, ムロアジ, マグロ幼魚の切り身や小型イカ類を餌として自動巻き揚げ機により揚げおろしを行なう。主な魚獲魚の種類を表-1に示す。漁獲量は日帰り操業が平均30kg程度、2~3日操業は100kg前後で数年前と比較すると1隻あたりの漁獲量は年々減少傾向にある。

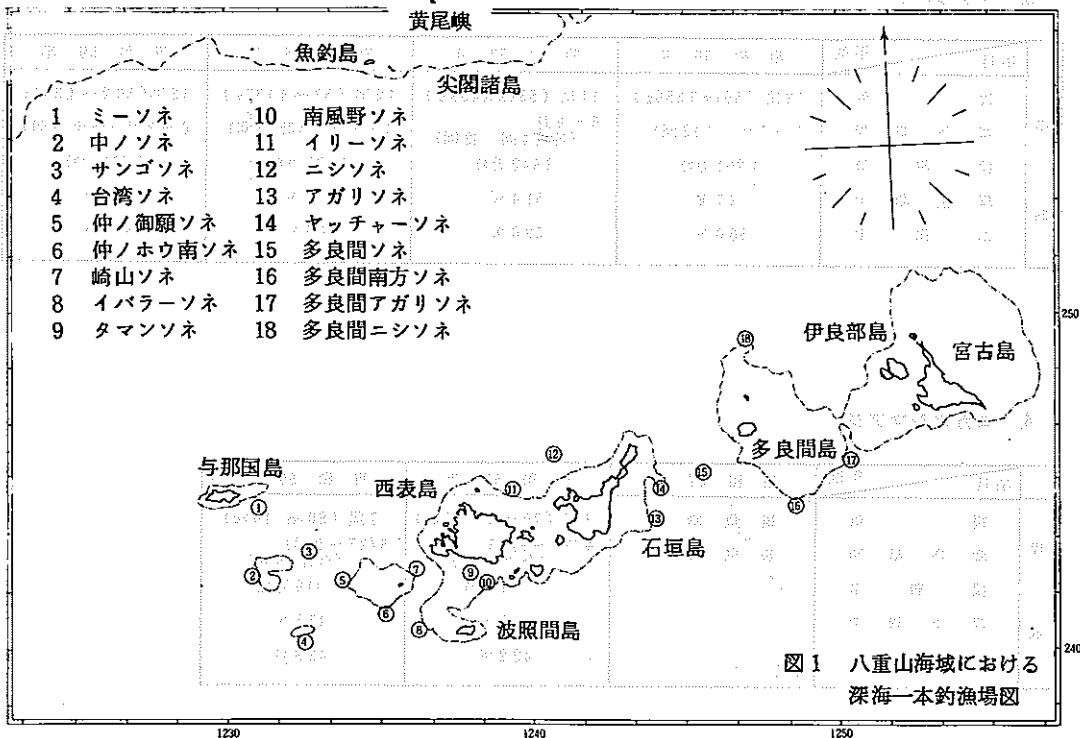


表1 深海一本釣による主な漁獲魚種

和名	学名	方言名
◎ ハマダイ	<i>Etelis coruscans</i>	アカマチ
◎ アオダイ	<i>Paracaesio caeruleus</i>	シチューマチ
◎ オオヒメ	<i>Pristipomoides filamentosus</i>	マーマチ
◎ ヒメダイ	<i>Pristipomoides sieboldi</i>	クルキンマチ
シロダイ	<i>Gymnocranius japonicus</i>	シルイユ
アオチビキ	<i>Aprion virescens</i>	オーマチ
オオクチイシチビキ	<i>Aphareus rutilans</i>	タイクチャーマチ
オオクチハマダイ	<i>Etelis radiosus</i>	アイノコ
ハチジョウアカムツ	<i>Etelis carbunculus</i>	ヒーランマチ
ハナフエダイ	<i>Tropidinius amoenus</i>	ビタロー
ウメイロ	<i>Paracaesio xanturus</i>	シーヌクア
ヒレナガカンパチ	<i>Seriola rivoliana</i>	ウキムルー
チビキ	<i>Erythrocles schlegeli</i>	チョウチンマチ

※ ◎印は特に漁獲量が多い魚種

両種の大きさと漁獲時期 カンパチとヒレナガカンパチとでは図2に示されたように明らかに大きさに差異がある。ヒレナガカンパチについては体重が1~9.5kgの範囲で2~6kg級が大きな比率を示しているのに対し、カンパチは2.5~26.5kgの範囲内で体重差が著しい。カンパチ

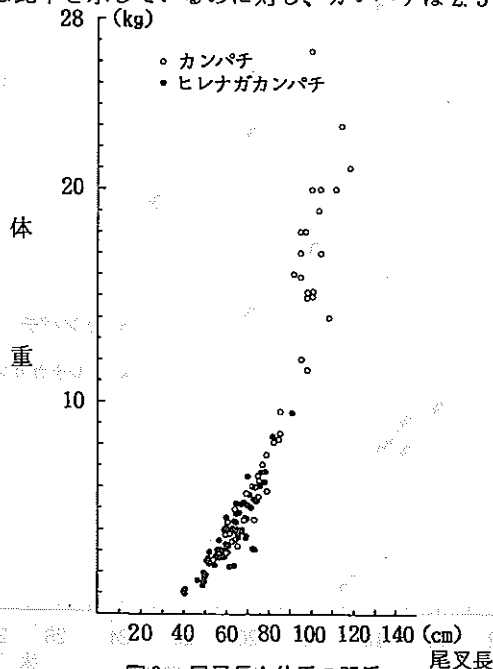


図2 尾叉長と体重の関係

チ, ヒレナガカンパチの相違点は背鰭条数, 背鰭前部軟条の形, 尾鰭下葉の先端の色さ等で両者を容易に区別できる。

漁獲時期については両種とも初夏から盛夏にかけては漁獲量が著しく減少するが、それ以外の時期は比較的安定しており特に秋期から初冬にかけては漁獲量が最も多い。夏期に漁獲量の大幅な減少が目立つのは台風の襲来や接近により出漁日数が少ないことが大きな要因となっているものと思われる。

産卵期 カンパチとヒレナガカンパチの生殖腺指数の月別変化を図3に示す。

カンパチは2月上旬頃から徐々に生殖腺の発達が見られ、4月から6月にピークに達し、そ

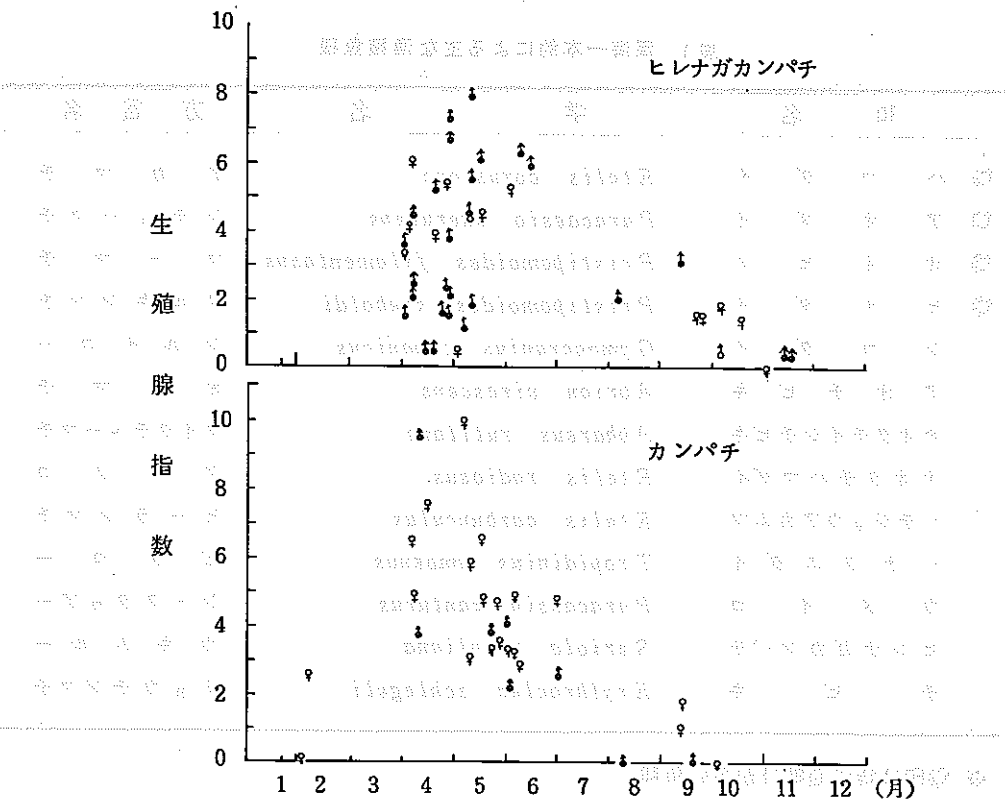


図3 月別の生殖腺指数変化  $\text{生殖腺指数} = \frac{\text{生殖腺重量 (g)}}{\text{尾叉長 (cm)}} \times 10^4$

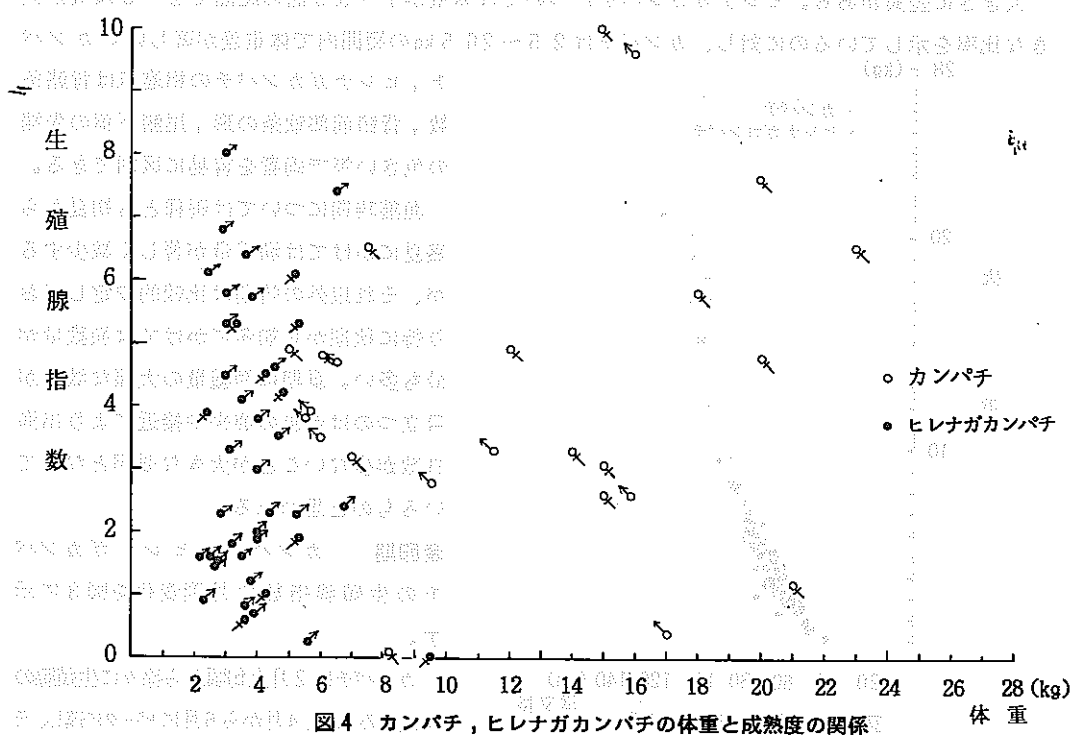


図4 カンパチ, ヒレナガカンパチの体重と成熟度の関係

の後徐々に減少して9月下旬頃から生殖腺は委縮する。ヒレナガカンパチは4月上旬から急激な生殖腺の発達が見られ、6月下旬頃までカンパチと同様に産卵の盛期となりその後生殖腺指数は減少して11月中旬頃までに生殖腺は委縮する。両種とも天然海域における産卵期は4～6月頃と推定できる。

カンパチ類の体重と成熟度の関係を図4に示す。

これからするとヒレナガカンパチは2kg以上、カンパチは5kg以上で生殖腺の発達が見られている。両種の場合体重の差異もあるがヒレナガカンパチが2～3年で早く成熟し、カンパチは3～4年で成熟するものと推定できる。

飼育 本土海域ではカンパチの幼稚魚は流れ藻についているモジャコと混獲して採捕されているが、八重山海域では流れ藻がほとんどなく沿岸海域でもカンパチ類の幼稚魚は見られない。したがって幼稚魚から親魚まで養成することは困難性があり、親魚を得るためには天然海域より成魚を釣獲し確保する必要がある。

採捕時期については漁獲量が量も多く、また産卵時期である比較的静穏な気候の4～6月頃が良く、魚体の大きさは輸送による魚体の損傷度などを考慮して2～5kg程度の小型魚を選定する。

飼育については本土においてもハマチ養殖と同様に養成されており、温帯から熱帯海域にかけて分布する種類でもあり、本県においても十分に養成可能と考えられる。

## 文 献

1. 原田輝雄, 村田修, 水野兼八郎, 古谷秀樹, 熊井英水, 中村元二 1972. カンパチの親魚養成, 人工ふ化仔魚飼育, 日本水産学会, 昭和47年度秋季大会講演要旨, No.516.
2. 原田輝雄, 村田修, 宮下盛, 古谷秀樹 1971. カンパチとヒラマサの人工交配とふ化仔魚の飼育, 日本水産学会, 昭和46年度秋季大会講演要旨, No.209.
3. 土津井憲彰, 福見敏房, 長谷川好男 1979. 養成カンパチの成熟状態と人工採取卵一卵一孵化仔魚の飼育について, 栽培技研, 8(2): 95～103.